

土成小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

「主体的に学習に取り組み、学びを伝え合い、高め合う児童の育成」  
～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～

【各校の取組状況の把握について】

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○真面目に課題に取り組むことができる。 ○基礎的・基本的な知識・技能について身に付いている児童が多い。 ●基礎・基本の定着が難しい児童もみられる。 ●話の要点を理解して最後まで聞くことに課題がある。 ●長い文章を正確に読み取ったり、自分の言葉に置き換えて説明したりするなど情報の理解・処理に課題がある。	・漢字の読み書きや語彙、四則計算などの基礎的・基本的な知識技能を確実に身に付けている。 ・相手の話を最後までしっかり聞き、自分の考えをもつことができる。 ・文章を正確に読み取るだけでなく、中心的な部分等、読み分けて要旨をとらえることができる。	・聞き方名人・めあて・まとめ・ふりかえり、ノートを取り方を全学年で共通理解し、掲示するとともに、教員が同じ方針で指導する。 ・朝のモジュール等でドリル学習に取り組むとともに、練習をくり返し、基礎基本の定着を図る。 ・子供新聞や週末読書、図書室を積極的に利用し、児童が活字に触れる機会を増やす。 ・アンダーラインや丸囲み、図形や表等を活用し、書かれていることを正確に読	・AIDリル(ミライシード)を活用し、自分に合った学習ができるようにする。 ・既習内容、特に漢字や九九の学習を活用できるように復習をしたり、つながりを意識させたりする。	○めあて・まとめ・ふりかえりは全学年で共通して取り組むことができた。 ○モジュールや空き時間を利用し、ミライシードを用いたAIDリル学習は基礎・基本の定着に効果的だった。 ●図書室を活用することで、週末読書を実施するなど、啓発に努めたが、十分ではない。 ●音読はできるが、読み取りの力はまだ十分ではなく、課題である。	・基礎・基本の力を児童に身につけさせるためには各学年で、復習の時間をとり、繰り返し練習が必要である。 ・引き続き、図書室を利用し読書の習慣を付けられるようにする。また、図書館も利用したい。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○指示されたことや、手順のわかる学習には積極的に取り組むことができる。 ●自分の考えを、自由に、筋道を立てて表現することに課題がある。 ●既習の知識同士を結びつけて、新しい問題を解決することに課題がある。	・学習したことや、得た情報について、自分の言葉で伝えようとするができる。 ・目的や場面に応じて、適切に話したり、聞いたり、話し合ったりしながら、考えを深めることができる。 ・既習の知識を用いて考え・予想を立てることができる。 ・自分の力で考え、適切な判断ができる。	・ペア活動、グループ活動等の学習形態を工夫して、個々の児童が自分の考えを表現する機会を増やす。 ・問題文から気付きをどんどん出させたり、子供のつぶやきをつなぎ、焦点化して学習課題を立てたりする。	・タブレットやホワイトボードの活用により、互いの意見を視覚化、共有していく。 ・タブレットの活用により、自分の考えを表出できるようになってきている。 ・発言できない児童のつぶやきもひろえるようになってきた。	○ペア活動・ループ活動を取り入れることで発表する機会を増やし、自分の考えを表現できる児童が増えた。 ○中学年以上は、タブレットも有効的に活用し、発表が苦手な児童の意見も共有できた。 ●単元によっては、学習課題を児童から引き出し設定することができた一方で、ほとんどの単元では教師側からの提示になった。	・全ての単元では難しいが、単元の特性に応じて、児童の発言から学習課題を引き出し設定する必要がある。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○宿題などの与えられた学習に対し、まじめに取り組んだり、自分の関心の高い活動には主体的に取り組んだりする児童が多い。 ●自分から課題を見つけ、その解決に根気よく取り組み、解決しようとする力に課題がある。 ●継続的な集中力に課題があり、環境に影響される。	・学習内容を自分事としてとらえ、自ら課題を見つけ、その解決に根気よく取り組むことができる。 ・積極的に自分の考えを伝えることができる。	・授業の導入の工夫や、次回の予告をし、児童の学習意欲が高まるようにする。 ・朝会や集会を活用して、発表の場を設ける。 ・6年生による読み聞かせを継続して行う。 ・「あかたっこがんばろうウィーク」に新たに睡眠時間とメディアコントロールについての項目を取り入れ、家庭と連携して生活の改善を目指し、児童の学習意欲を高める。	・予習を自学で入れることで、次の学習につなげられるようにする。 ・高学年になるにつれて、自分でメディアコントロールができるようになっていきたい。 ・「あかたっこがんばろうウィーク」の形式を見直し、楽しく取り組めるように工夫した。	○各学年や委員会の発表の場を設けることができた。 ○自主学習のお手本や他の児童のノートを掲示することで、学習意欲が高まり充実した。 ○メディアコントロールの呼びかけや、チェックを年間通してすることで、児童が自ら生活習慣を整え、何事にも前向きに取り組めるきっかけとなった。 ●高学年になるにつれて、メディアとの付き合い方に課題がある。	・朝会や学年を超えての交流の場をたくさんつくり、児童にとって魅力的で、進んで取り組みたくなるような活動を設定する。 ・引き続きメディアコントロールに取り組む、家庭と連携を取りながら児童の生活習慣をよりよいものにしていく必要がある。